# 教研式　新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関)用語集

## Ⅰ 知能

| 用語 | 解　　説 | 参照 |
|---|---|---|
| ＩＳＳ | 知能偏差値。教研式では「平均＝５０」 | ①A |
| D.ＩＱ | 知能指数。ＩＳＳを「平均＝１００」に換算した時の知能偏差値 | ②Ⅱ |
| Ａ式知能 | 言語(聴覚・抽象)領域の知能。WISC の言語性知能(VIQ)に近い | ③Ⅰ |
| Ｂ式知能 | 非言語(視覚，操作，感覚運動)領域の知能。WISC の動作性知能(PIQ)に近い | |

## ２　学習スタイル

| | | |
|---|---|---|
| 学習ﾍﾟｰｽ | 知能。ISS を H(ﾊｲ)，M(ﾐﾄﾞﾙ)，L(ﾛｰ)の３段階で表記。WISC の全知能(FIQ)に近い | ①C |
| ＢＳＳ | 学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。(ISS は生活年齢を基準とした全領域知能) | ②ⅢⅣ |
| 学習適性 | Ａ式優位か，Ｂ式優位か。両者の差が７以上で優位判定。優位なしは□で表記 | ③1,2 |

## ３　知的機能　　＜人は５つの思考過程を経て問題解決する。(ギルフォード知能論)＞

| | | |
|---|---|---|
| 認知 | 過程１：理解力　「なるほどそういうことね」と聞かれていることを理解する機能 | ①B |
| 記憶 | 過程２：記憶力　「これはこうで，あれはそう」と理解したことを記憶する機能 | ②Ⅰ |
| 拡散思考 | 過程３：発想力　「ああでもない，こうでもない」と思考する機能 | |
| 集中思考 | 過程４：思考力　「それなら答えはこれだ！」と解決する機能 | |
| 評価 | 過程５：判断力　「ミスはないか」と評価する機能 | |

## ４　創造性　　＜問題解決における創造性＞

| | | |
|---|---|---|
| 流暢性 | アイデアの速さ・量の多さ。情報処理の速さ。量的創造性 | ①B |
| 柔軟性 | 観点の広がり。多種多様な思考。質的創造性。 | ②Ⅰ |

## ５　課題解決スタイル　　＜知的作業の速さ・正確さ。９パターン。WISC の FD や PS に近い。＞

| | | |
|---|---|---|
| 効率型 | 速い×正確：課題が速く終わった時に退屈しないよう次の課題を用意。 | ②Ⅲ |
| 迅速型 | 速い×普通：「スピードよりも正確さを気にして。まだミスは減らせるよ」 | ③Ⅰ |
| 性急型 | 速い×不正確：「あわてんぼうだなあ。ゆっくり確認しながらやろう」　☆ADHD っぽい？ | ③3 |
| 着実型 | 普通×正確：「スピードを意識してやってみよう。」 | |
| 普通型 | 普通×普通 | |
| 準性急型 | 普通×不正確：「あわてずゆっくりやると，ミスも減るよ」 | |
| 慎重型 | 遅い×正確：「正確にできているから，安心してスピードを上げてみよう。」　☆こだわりあり？ | |
| 悠長型 | 遅い×普通：「スピードを意識してやってみて」 | |
| 緩行型 | 遅い×不正確：「ゆっくりでいいから，まずは正確にやることを目標に」 | |

## ６　知学相関　＜知能と学力の相関＞

| | | |
|---|---|---|
| ＳＳ | 学力偏差値。実際の学力値。 | ①C |
| ＥＳ | 学力期待値。知能から推測される学力。(これくらいはできるはず。できてほしい学力) | ②Ⅶ |
| 新成就値 | 能力の発揮度。新成就値＝学力偏差値（SS）－学力期待値（ES） | ⑤ |
| 成就型 | 新成就値（能力発揮度）のパターン。以下の３パターン。 | 学 |
| ＵＡ | ｱﾝﾀﾞｰｱﾁｰﾊﾞｰ(－8↓)：能力の発揮度が低い。原因は怠慢だけでない場合が多い。 | |
| ＯＡ | ｵｰﾊﾞｰｱﾁｰﾊﾞｰ(+8↑)：能力以上に発揮。頑張りすぎ・過剰適応。丁寧な賞賛を。 | |
| ＢＡ | ﾊﾞﾗﾝｽﾄﾞｱﾁｰﾊﾞｰ(±7)：能力相応に実力発揮。いい感じ。 | |

＜参考資料＞「教研式知能検査サポート活用の提案」(牧之原養護学校 耳田ひとみ) 教育情報 かごしま Vol.22　2014

「教研式知能検査サポートを活用した子ども理解と指導」(牧之原養護学校 耳田ひとみ) 鹿屋養護学校ｻﾏｰｾﾐﾅｰ 2015

「教研式新学年別知能検査―サポート･学習支援システムーの紹介」(応用教育研究所 黒沢奈生子)　図書教材新報 2015

「生かそう! NRT と教研式」(鹿屋養護学校 西育子) 鹿屋養護学校ｻﾏｰｾﾐﾅｰ 2019

「教研式新学年別知能検査サポートの活用と支援の充実」（西育子,山田良枝,北田康代,安水理恵子,吉ヶ別符さゆり）特別支援学校教育論文 2020

【様式Ｉ】　　教研式新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関)　個別集計表

| 年　組　番 | 名　前 | 記入者 | 記入日 |
|---|---|---|---|

## Ｉ　基本情報

| 項目 | 結果 | 解　　説 | 参照 |
|---|---|---|---|
| ＩＳＳ | ６５ | 知能偏差値。「平均＝５０」 | ①A |
| D.ＩＱ | Ｉ２４ | 知能指数。ＩＳＳを「平均＝Ｉ００」に換算した知能偏差値 | ②Ⅱ |
| ＢＳＳ | ６６ | 学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。「学習ペース」 | ③Ｉ |
| Ａ式知能 | ６０ | 言語(聴覚・抽象)領域の知能。WISC の言語性知能(VIQ)に近い | |
| Ｂ式知能 | ６９ | 非言語(視覚･操作)領域の知能。WISC の動作性知能(PIQ)に近い | |
| 学力ＳＳ | ７Ｉ | 国（　７２　）社（　７Ｉ　）数（７０）理(　７０　）英（　　） | 学 |

## ２　分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| (I) 知能 | ✓ | H(55↑) | 70 以上なら発展的な学習を好む可能性あり。友達に教える体験も有効 |
| | | M | 全体として平均的ではあるが，極端な得意・不得意がないか確認 |
| | | L(45↓) | 30 以下なら，具体的・体験的な学習，個別指導が向いている可能性あり |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (2) ﾀｲﾌﾟ | | Ａタイプ | 言語優位。聴覚・言語情報を通して学ぶタイプ。素材「意味的」が高め |
| | ✓ | Ｂタイプ | 非言語優位。視覚情報（絵図）や操作・体験を通して学ぶタイプ。素材「図形的」が高め |
| | | □タイプ | バランスタイプ。Ａ，Ｂどちらのタイプに近いか確認 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (3) 知的機能 | 5 | 認知 | 過程Ｉ：理解力　「なるほどそういうことね」と聞かれていることを理解する機能 | ①B ②Ｉ |
| | 2 | 記憶 | 過程２：記憶力　「これはこうで，あれはそう」と理解したことを記憶する機能 | |
| | 5 | 拡散思考 | 過程３：発想力　「ああでもない，こうでもない」と思考する機能 | |
| | 5 | 集中思考 | 過程４：思考力　「それなら答えはこれだ！」と解決する機能 | |
| | 4 | 評価 | 過程５：判断力　「ミスはないか」と評価する機能 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (4) 知的作業 | ✓ | 効率型(速×正) | 「終わったらこれやって」「友達に教えて」等，退屈せぬよう次の課題を | ②Ⅲ ③Ｉ ③3 |
| | | 迅速型(速×普) | 「スピードよりも正確さを。ミスは減らせるよ」 | |
| | | 性急型(速×不) | 「あわてずゆっくり。見直し大事。確認大事」（不注意傾向，ＡＤＨＤ？） | |
| | | 着実型(普×正) | 「ミスピードを意識してやってみよう」 | |
| | | 普通型(普×普) | | |
| | | 準性急型(普×不) | 「あわてずゆっくりやると，ミスも減るよ」（やや不注意傾向） | |
| | | 慎重型(遅×正) | 「できているよ。安心してｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ」（こだわり？　ＡＳＤ？　ＬＤ？） | |
| | | 悠長型(遅×普) | 「速さを意識してやってみて」（眼球運動，集中力に課題あり？） | |
| | | 緩行型(遅×不) | 「まずは正確にやることを目標に」（理解できずにミス？） | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (5) 相関 | | ＵＡ(ｱﾝﾀﾞｰ) | 能力の発揮度が低い。認知特性や家庭環境に支援が必要な場合あり。 | ②Ⅶ ⑤ 学B |
| | ✓ | ＯＡ(ｵｰﾊﾞｰ) | 能力以上に発揮。頑張り過ぎ・過剰適応の心配あり。 | |
| | | ＢＡ(ﾊﾞﾗﾝｽ) | 能力相応に発揮できている。 | |

| | |
|---|---|
| 所見 | ・とても優秀なお子さん。<br>・ただ気になるのが(5)相関のオーバー,(3)知的機能「記憶」の2。(他が5なだけに気になる。)<br>・(2)タイプはB。A(言語)領域は苦手そう。言語面の記憶の苦手さが「記憶」の2に反映されているのか･･･。<br>･その苦手さをかなりの努力で補って(オーバーが出るぐらい頑張って),この素晴らしい結果を出している?<br>･どちらにしろオーバーが出ている。過剰適応･頑張り過ぎの可能性あり。丁寧に声掛けしてもいいお子さんかも。 |

(R5.鹿屋特別支援学校)

【様式２】　　教研式　新学年別知能検査「サポート」(NRT 相関)　学級集計表（２年３組）

| Ⅰ　学習ペース | | | Ⅱ　知 能 タ イ プ　（参照③） | | | Ⅲ　知学相関（参照⑤） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （学級ＩＳＳ)57.0　（参照①D） | | | Ａ(言語･聴覚) | □(ﾊﾞﾗﾝｽ) | Ｂ(感覚･視覚) | | |
| Ｈ(高)　55↑ | 60%(全国 31%) | 参照③ | 20 %（全国 16%） | 60 %（全国 68%） | 20 %（全国 16%） | Ｏ(ｵｰﾊﾞｰ) | 12% |
| Ｍ(中)　45～54 | 32%(全国 38%) | | | | | Ｂ(ﾊﾞﾗﾝｽ) | 76% |
| Ｌ(低)　44↓ | 8%(全国 31%) | | | | | Ｕ(ｱﾝﾀﾞｰ) | 12% |

(1) 学習ペース(知能）のばらつきは必ずある。「学力という船からは誰一人として下ろさない」気持ちで配慮。
(2) 授業では集団支援の工夫を。授業はそもそも言語中心。視覚支援や具体物操作でＢタイプに配慮。
(3) 集団支援の基本例　①傾聴態度の確認　②短文(１文１動詞)話形での説明　③復唱要求　④学習動作の確認　⑤個別注意による授業中断の回避(集中が切れ始めたら立つ活動の投入。協同学習ｽﾀｲﾙの導入)
(4) Ｏ(ｵｰﾊﾞｰ)は頑張り過ぎ・過剰適応状態。課題量調節や丁寧な賞賛，本人との面談で心理面に配慮。不登校等。
(5) Ｕ(ｱﾝﾀﾞｰ)は実力が発揮しづらい状態。認知特性や家庭環境等，本人だけで解決困難な要因もあり。要支援。

Ⅳ　課題解決スタイル（参照③）　※Ｌ５型（慎重・悠長・緩行・準性急・性急）に配慮

| | 遅い | 普通 | 速い |
|---|---|---|---|
| 正確 | 【慎重型】遅い×正確 | 【着実型】速度普通×正確 | 【効率型】速い×正確 |
| | 30 ハ・ア（Ｍ・□・Ｏ・慎）<br>↑ Ⅰペース<br>↑ Ⅱタイプ<br>↑ Ⅲ知学相関<br>↑ Ⅳスタイル | 6 サ・ア（Ｈ・Ａ・Ｏ・着）<br>8 ナ・ア（Ｈ・Ｂ・Ｂ・着）<br>26 ツ・ア（Ｈ・Ａ・Ｂ・着）<br>2 イ・ア（Ｍ・Ｂ・Ｂ・着） | 11 マ・ア（Ｈ・□・Ｂ・効）<br>29 ニ・ア（Ｈ・□・Ｂ・効）<br>3 カ・ア（Ｈ・Ｂ・Ｏ・効）<br>22 イ・ア（Ｈ・□・Ｂ・効）<br>25 ス・ア（Ｈ・□・Ｂ・効）<br>27 ナ・ア（Ｈ・Ｂ・Ｕ・効）<br>32 ミ・ア（Ｈ・□・Ｂ・効）<br>24 コ・ア（Ｈ・□・Ｂ・効） |
| | 「できているよ。安心してｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟしよう」 | 「速さを意識してやってみよう」 | 終わったらこれやって」「友達に教えて当，」次の課題を(二段指示) |
| 普通 | 【悠長型】遅い×正確さ普通 | 【普通型】普通×普通 | 【迅速型】速い×正確さ普通 |
| | 33 ユ・ア（Ｌ・□・Ｂ・悠） | 10 ナ・ア（Ｈ・□・Ｂ・普）<br>31 ホ・ア（Ｍ・Ｂ・Ｂ・普）<br>9 ナ・ア（Ｍ・□・Ｕ・普）<br>5 コ・ア（Ｍ・Ａ・Ｂ・普） | 1 イ・ア（Ｈ・Ａ・Ｂ・迅）<br>4 カ・ア（Ｈ・Ａ・Ｂ・迅）<br>23 キ・ア（Ｈ・□・Ｕ・迅）<br>21 イ・ア（Ｍ・□・Ｂ・迅） |
| | 「もう少しスピードをあげても大丈夫」 | | 「速さは気にせず，ミスをしないことに集中しよう」 |
| 不正確 | 【緩行型】遅い×不正確 | 【準性急型】速度普通×不正確 | 【性急型】速い×不正確 |
| | | | 7 タ・ア（Ｍ・□・Ｂ・性）<br>12 ヤ・ア（Ｍ・□・Ｂ・性）<br>28 ナ・ア（Ｌ・□・Ｂ・性） |
| | 「まずは正確にやることを目標に。」 | 「あわてずゆっくりやると，ミスも減るよ」 | 「あわてずゆっくり。見直し大事。確認大事」 |

(1) 知的作業（集中力，板書，音読等の学習動作）の速度や正確さに課題がある“Ｌ５型”は，聴覚的・視覚的短期(作動)記憶，眼球運動，手先の器用さに課題がある場合が多い。
(2) 体幹ﾊﾞﾗﾝｽ，立つ・歩く・蹴る・揺れる・止まる等の基本的な身体運動(感覚統合)，手指運動やﾋﾞｼﾞｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞなどが有効なこともある。これらのﾄﾚｰﾆﾝｸﾞはクラス全体でできるものもある。朝の会等で継続的にできれば，学級全体の知的作業のレベルアップにつながることも。
(3) 特に読み書きに課題がある場合は代替手段の活用も検討していく。①板書量調整(ﾜｰｸｼｰﾄ，最低限の板書箇所を色チョークで囲む）②機器活用(読み上げ，板書撮影，音声入力，ﾀﾌﾞﾚｯﾄ入力)等の支援により，読み書きの負担を減らし学習への集中と理解を促す。

(R5.鹿屋特別支援学校)